

HELES, JCA Hokkaido, JACET Hokkaido – Joint Meeting 2025



# HELES, JACET 北海道支部, JCA 北海道支部 2025 年度 合同研究会

**Date 日付：** 2026 年 3 月 8 日（日）

**Registration 受付：** 12：30～

**Study Meeting 研究会：** 13：00 – 17：55

**Venue 会場：** 北海学園大学（豊平キャンパス）  
8号館 B42 教室

※日曜開催のため、駐車場は使用できません。  
公共交通機関でお越しいただくか、近くの  
コインパーキングをご利用ください

**Registration Fee 参加費：** 無料

**Registration 参加申し込み：** 下記のサイトからお申込みください

<https://forms.gle/tjAkXBk1PgK7Ehby9>（3/4（水）締切）

【懇親会情報】

開始時間：19:00～

会場：きたとら KITATORA 札幌駅北口店（予定）

（北海道札幌市北区北7条西1丁目2-6 NCO 札幌ビル B1F）

会費：5000 円



## PROGRAM

12:30 – 13:00 受付  
13:00 – 13:05 開会式  
13:05 – 13:35 研究発表①

「高等学校英語授業における Meaningful Input 拡充の実践

— 生成 AI と音声ツールの活用 —」

齊藤 堯仁（北海道北見工業高等学校）

13:40 – 14:10 研究発表②

“Task-based language teaching in media translation course at the  
university level”

Marshall Klassen（Hokkaido University）

14:15 – 14:55 特別講話①

「グローバルな視点からの英語教育—News in Levels を教材にして—」

竹内 典彦（北海道情報大学）

15:00 – 15:40 特別講話②

「生成 AI のテキスト生成から見えてくるもの

— 学習者テキストの個別化への対応 —」

竹村 雅史（北星学園大学短期大学部）

15:40 – 16:00 Coffee/Tea Break 休憩

16:00 – 17:50 講演

「国語×英語：「連携」授業を始めるための基礎知識（歴史・方法・実践）」

榎木 貴之（北海学園大学）

17:50 – 17:55 閉会式

# ABSTRACTS

## 研究発表①

「高等学校英語授業における Meaningful Input 拡充の実践

— 生成 AI と音声ツールの活用 —

齊藤 堯仁（北海道北見工業高等学校）

本発表は、高等学校における英語コミュニケーション科目および論理・表現科目の授業において、学習者に対する「Meaningful input」の拡充を目指した実践的試みについて報告するものである。本校においては、多くの生徒が中学校段階で英語に対して苦手意識を有しているという現状が認められるため、教科書の本文と練習問題に加え、CEFR A1 から A2 レベルに相当する独自教材を ChatGPT および音声読み上げソフトを用いて作成し、生徒に課題を与えた。さらに、授業後も学習者が継続的に学習活動へ取り組める環境を構築する目的で、QR コードを用いた自律学習支援を実施した。理論的枠組みとしては、Nation（2007, 2024）の「4 strands」および Schmidt（1990, 2001）の「Noticing Hypothesis」などを参照し、学習者が Meaningful input を効果的に受容する方法とその「気づき」について検討する。

## 研究発表②

“Task-based language teaching in media translation course at the university level”

Marshall Klassen（Hokkaido University）

In this presentation, I explore the use of TBLT approaches in a media translation course at the university level. One of the key findings of research in TBLT is that learners of second language learn the form, use, and context of the target language through participating in activities and communicating with other learners, while constructing meaning, and achieving a shared goal. Various translation tasks can be implemented in a translation course such as source-oriented and target-oriented groups, acting as language or cultural experts in translation from a variety of media such as manga, TV and other forms of media. Throughout the semester, students take on a variety of roles in the process of initial translating, peer review, and evaluating from the perspective of the potential audience and referencing expert translations. Through this TBLT approach, students learn how to incorporate different perspectives and linguistic considerations into their translations.

# ABSTRACTS

## 特別講話①

「グローバルな視点からの英語教育 –News in Levels を教材にして–」

竹内 典彦（北海道情報大学）

本発表では、大学1年生対象の英語科目において、無料のウェブ教材「News in Levels」を活用した実践例を報告する。本実践は、世界各地のニュース記事と動画を主教材とし、学生のグローバルな視点の養成と発信力の強化を目的としている。授業では、講師による英文解説と動画鑑賞を通じたインプットののち、アウトプット活動へと繋げる。学生はまず、ニュース内容に対し40秒程度で自身の意見、感想、経験を含めた英文コメントを作成し、ペアワークで共有する。さらに、指定トピックに基づく英作文とその発表を組み合わせることで、論理的思考力と即時的な発話力の双方を鍛える。インターネット上の生きた教材を活用し、最新の国際情勢に触れながら「読んで理解する」段階から「自らの意見を英語で発信する」段階へと円滑に移行させるための指導法と、学生の反応について考察したい。

## 特別講話②

「生成AIのテキスト生成から見えてくるもの –学習者テキストの個別化への対応–」

竹村 雅史（北星学園大学短期大学部）

生成AI（大規模言語モデル）の登場は教育・研究・社会に大きな変化をもたらしつつある。本発表では、生成AIによる多読テキスト生成の可能性とリスクを整理し、教育的観点からその意義を考察する。具体的には、学習者に応じた教材生成や自律的学習支援といった利点、また事実誤認や倫理的課題といった限界を取り上げる。その上で、生成AIを単なる道具としてではなく、学びのあり方を問い直す契機と捉える視点を提示する。

# ABSTRACTS

## 講演

### 「国語×英語：「連携」授業を始めるための基礎知識（歴史・方法・実践）」

柁木 貴之（北海学園大学）

現行学習指導要領では、小中高すべての段階で「国語教育と英語教育の連携」が推奨されている。本講演では「連携」授業を始めるための基礎知識として、歴史、方法、実践について概観する。講演の前半では拙著『国語教育と英語教育をつなぐ：「連携」の歴史、方法、実践』（東京大学出版会、2023年、456頁）に基づき、歴史と方法について論じる。「連携」という発想がいつ頃に生まれ、どのような経緯を経て現在に至っているかを理解することで、現在話題になっている「連携」の学術的な背景について共有したい。講演の後半では、現行学習指導要領下の国語教科書・英語教科書を調査したところ、「連携」に使用可能な題材が50以上含まれていたことを示した上で、今後、どのような「連携」授業が可能かについて一緒に考えたい。

#### 【講師略歴】

柁木貴之（まさき・たかゆき）

北海学園大学経済学部教授

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士（学術）。明星高等学校・英語講師、明治学院高等学校・国語講師、東京理科大学・英語講師等を経て現職。著書『国語教育と英語教育をつなぐ：「連携」の歴史、方法、実践』（東京大学出版会、2023年、456頁）で東京大学而立賞、日本英語教育史学会著作奨励賞、外国語教育メディア学会（LET）学術賞。著書刊行後の研究で外国語教育メディア学会（LET）関東支部賞。

---

#### 《お問い合わせ先》

- ◆ HELES 事務局 三ツ木 真実（小樽商科大学）  
mitsugi [@を入れる] res.otaru-uc.ac.jp
- ◆ JACET 北海道支部事務局 高橋 博（藤女子大学）  
hirot711 [@を入れる] fujijoshi.ac.jp
- ◆ JCA 北海道支部事務局 竹内 康二（札幌国際大学）  
doucereve2803 [@を入れる] ymail.ne.jp